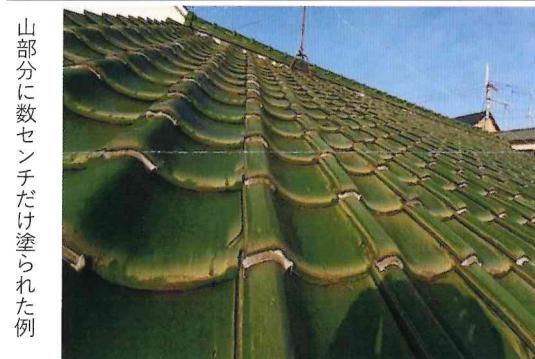


瓦屋根のコーティングと緊結

何気なく実家の屋根を見上げたら、「えへへ、嘘。コーティングされている。」普段気にも留めない実家の屋根を見上げて思わず出た「あへへ、いつコーティングなんかしたの?」という、残念そうな響きを含む私の問いに、若干耳が悪くなりかけている(聞きたくない言葉は超上手くスルー出来ます)母が「台風や地震とかで瓦がズレないようになって業者さんが回ってこられて、ご近所でも沢山してもらってるよ」と、心なしか得意気。家つて正にこのタイプが多いんです。ご近所でも何軒も多かれと思つてウチもして下さいました……という非常な理由。



4 辺金で、もれなく塗られた例
この施工がされた屋根は、ほとんど
の案件が中で雨漏りが起いています。

本来なら、多少湿つても
自然に吸湿・乾燥・換気が
出来る仕組みの瓦屋根ですが、不適切なコーティングで
隙間を防がれている場合、
入り込んだ雨水や結露は乾きにくく、屋根内部の湿気を高めます。

孫七では、屋根修理のご依頼を頂くと国家検定試験に合格した、かわらぶき技能士資格と、瓦屋根診断技士の資格を持つ熟練の技術者が現場調査に向かいます。その際に修理の必要箇所を撮影した上で、お客様にご提出する見積写真とお見積書を準備するのですが時折、コーティングが施されている現場の写真があります。「自然災害の際に瓦がズレないように」という意図は理解できますし、実際その目的に合った最小限のコーティング施工がされている屋根もあります。



知識のない施工者や業者が、塞いではいけない箇所にコーキング剤だけが塗られてい場合など、落下予防には成り得ても雨漏りが止まることはありません。

ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です

まごひち瓦版



色々な瓦にしっかりと塗られた例



● 初期の瓦屋根は、竹を編んだ下地の上に土・瓦が並べられたものであります。木材の加工技術が向上すると、下地は野地板を打ち付けていたものに変わり、その上に土・瓦へと移行してきます。

● 蓖き替時に現在もよく遭遇するのは、野地板・合板・防水シート、土・瓦。瓦の形状改良が進み、桟木に引っ掛ける突起をもたせた形が出来たことで、引っ掛け工法による屋根葺きもあります。

● 平成13年8月(2001年)からは、釘などで全ての瓦を桟木に緊結するガイドラインが出来ました。



※ 少しでも雨漏りを防ぐために、板の上に杉皮を敷く場合もあつたようです。
※ 合板や防水シートが普及してくると土の下にそれらが施工されるようになりました。